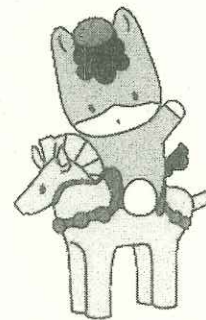


東国文化自由研究レポート



研究テーマ

すごいぞ太田

提出日 2021年8月27日(金)



伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校

1年 3組 19番

氏名 清村 美咲希

① 研究の動機・目的

今から約1300～1700年前、古墳時代の古代群馬県は、1万3000基以上という東日本最大級の古墳大国であり、東国文化の中心として栄えていました。

その群馬県の中でも、自分の住んでいる町「太田市」にある「天神山古墳がすごい」と知り、その「天神山古墳」そして、それ以外にもすごいものがあるのかということについて調べてみようと思いました。

② 調査方法

① 太田市天神山古墳

実際に現地へ行き、どのくらい大きいのか、どのような形なのかを調べる。

② 新田荘歴史資料館

天神山古墳から出土されたさまざまなものを実際に見る。

③ インターネット

資料館、現地調査で調べられなかったことを調べる。



③ 調査の結果

ます

<古墳とは？>

古墳とは、今からおよそ1,700～1,300年の3世紀中頃～7世紀末に、土を盛り上げて造られたお墓のことで、地域を治めた有力者が身分の高い人が葬られました。

古墳には、埴輪が並べられたり、埋葬施設に豪華な副葬品が添えられたりすることがあります。これらの埋葬品からは、被葬者の生前の財力・権力などを推測することができます。

古墳には、1.前方後円墳 2.前方後方墳 3.帆立貝式古墳 4.円墳 5.方墳 6.八角形墳 と、主に6つの種類古墳があります。特に多く発見されているのが円墳です。

太田市には、3世紀前半から7世紀末までの間に、すでに消失してしまったものも含め、合計約1200基もの古墳が確認されています。

1	前方後円墳	古墳時代を代表する墳形。後円部に死者を葬る施設が造られることが多い。近畿を中心に東北から九州まで全国的に分布し、巨大古墳に多い。ヤマトと関係の深い朝鮮半島の一部地域でも築かれている。
2	前方後方墳	前方後円墳の後円部を方形にしたもの。3～4世紀に比較的多く、全国に分布するが、おもに東日本地方に多く見られる。
3	帆立貝式古墳	前方後円墳のうち、方形の部分が著しく短いもの。円墳に四角い造り出しをつけたとする見方もある。
4	円墳	円形の古墳。直径は10m弱から100m超までさまざま。古墳時代全体を通して日本全国に分布する。5世紀後半からは、主に小型円墳の群集墳が形成される。
5	方墳	墳丘の立体的な形状がピラミッドのような四角錐または四角錐台の古墳。7世紀には前方後円墳に代わる、上位の首長の墳形になった。
6	八角形墳	墳丘の平面形態が八角形の古墳。天皇のみに許された墳形とされていたが、近年、地方でも見つかっている。すべて7世紀から8世紀初めに造られており、中国の宇宙観や山嶽思想の影響によると考えられている。

天神山古墳

天神山古墳は、伊勢崎線太田駅の東12kmほどの場所に造られた、前方後円墳です。墳丘の周囲には堀が二重に巡らされ、北東側の堀の外にはこの古墳に付随する陪塚が造られています。そして、この天神山古墳の1番の魅力が、墳丘の全長が約210mで、東日本最大、全国でも28位というほどの大きさだということです。

では、このとてもすごい天神山古墳からは、どのようなことがわかるのでしょうか。



1. 天神山古墳における出土遺物

① 天神山古墳の水鳥形埴輪

天神山古墳からは、形や造りが異なる種類の円筒古墳の他、家・鶏・水鳥などの形象埴輪と、さまざまなものが見つかっています。これらの発見されたものから私が7番目になった「水鳥形古墳」について調べました。

水鳥形埴輪は、天神山古墳(内ヶ島町)の東側墳立で、偶然発見されました。

水鳥形埴輪には、主に3つの特徴があります。

1. 鶏冠や耳など、鶏の特徴的な部分が作られていない
2. 筒状の長い首が直立する
3. くちばしの根元が平らにつぶれている

これらの特徴から、この埴輪は「白鳥」として作られたと考えられます。

また、古事記や日本書紀の中では「倭建命(日本武尊)は死後、白鳥となって故郷に飛んでいった」と記されていることから、古代の人々は「白鳥は靈魂そのもの」と考えられていたと思われる。

<全体復元のわけ>

この埴輪(右の写真)は、もともと首だけが発見されていました。ですが、その首を見た小学生に、「ゴジラ!」といわれたことから、天神山古墳と同じ時期に造られた津堂古墳の水鳥埴輪を参考に、全体像を復元できました。



水鳥形埴輪

頭部だけが見つかりました。

~主な鳥形埴輪の見分け方~

- ・鶏：鶏冠や肉垂れ、耳がある。雄鶏は大きな尾羽
- ・鶺鴒：長い首に魚を飲み込まないようにくちばりをまく
- ・鷹：尾羽の根元に鈴をつける

ぜんこん



② 長持形石棺

ます

〈石棺とは?〉

死者を納めるための石造の容器です。石棺には、
 数個の石材を組み合わせて作った組合せ式石棺
 (図1)と、棺身を一石からくり抜いてつくる刳抜き式石棺
 (図2)があります。エジプトやギリシア、ローマをはじめ、
 世界の各地で古くから石棺が用いられていた事例が多く、
 私たちが暮らしているこの日本でも石棺は、縄文時代に
 一部の地域で見られ、弥生時代には西日本で類別が
 増え、古墳時代に増加するというように、各地で古くから
 用いられていました。

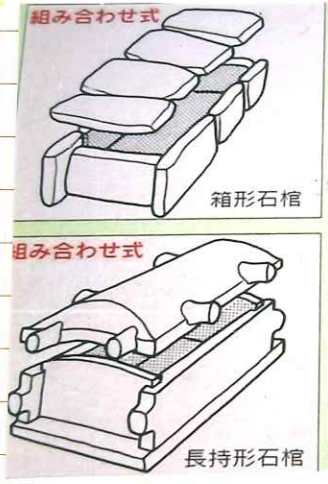


図1

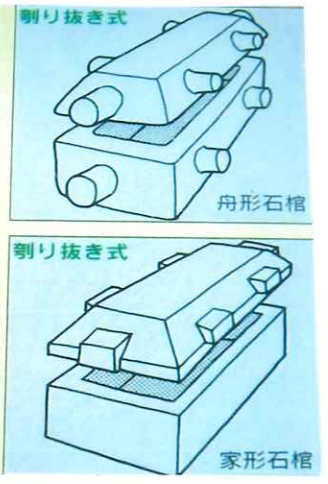


図2

箱形石棺、舟形石棺、家形石棺と、さまざまな種類の石棺(図1,2)があるなかで、天神山古墳
 から出土したのが「長持形石棺」です。長持形古墳とは、底石と4枚の側石(かわせき)、蓋石(ふたいり)を
 組み合わせた箱形の石棺です。昔の物入れの長持ちに形が似ていることから、この名前がつけられました。



長持形石棺の破片

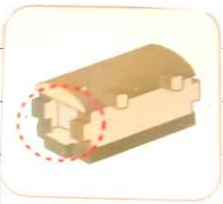
この長持形石棺は、古墳時代の各地の王の中でも、数えられる程少ない
 大きな力を持った、最強クラスの王にしか作られませんでした。

長持形石棺は全国でも45列ほど(出土地不明なども含めて)

東日本ではこの大田市天神山
 古墳と、伊勢崎市お富山古墳
 の2列のみ、知らされており、非常
 に少ないです。また、その多くは
 近畿地方のヤマト王権を代表
 するとても大きく、有名な古墳
 で占られています。

長持形石棺が出土した地域	
関東地方	… 2列
近畿地方	… 20列
中国地方	… 4列
九州地方	… 2列

*出土地不明なものなどは含んでいない。



長持形石棺 (イメージ図)

出土遺物からわかったこと

- ・天神山古墳から出土した埴輪には、近畿地方の最新技術が使われていた。
- ・天神山古墳からは、最強クラスの王にしか作られない「長持形石棺」が出土した。

この2つのことから...

この天神山古墳は、ヤマト王権ととても強い政治的なつながり
 を持った、とても強い首長のための古墳であると考えられる。



2. 天神山古墳と女体山古墳の関係

① 天神山古墳・女体山古墳

太田天神山古墳とは？

別名	男体山古墳 (なんたいさんこふん) 1941年に国の史跡に指定
所在地	群馬県太田市内ヶ島町 1606-1 ほか
形状	前方後円墳
規模	墳丘長 210m 高± 16.5m 全国第28位、東日本第7位
出土品	水鳥形埴輪、円筒埴輪など
製造時期	5世紀前半～中期頃
被葬者	不明



女体山古墳とは？



名称	女体山古墳 (おんなたいさんこふん) 昭和2年4月8日 国史跡指定
所在地	太田市内ヶ島町 1506-1 ほか
形状	帆立貝形古墳
規模	墳丘長 106m, 高± 7m 帆立貝形古墳の中では全国3位
出土品	円筒埴輪, 形象埴輪
製造時期	5世紀前半
被葬者	不明

帆立貝形古墳

<帆立貝形古墳とは？>

古墳の一形式で、円丘の一方に比較的小さな方形の付属物が付き、平面形がホタテ貝に似た古墳の総称です。厳密には、円墳に方形の造り出しが付属したものと、前方後円墳の前方部が短小化したものとを区別すべきであり、判断が困難なことも少なくはありません。古墳時代中期に多く、全国では400例をこえています。

群馬県内では、女体山古墳の他、太田市竜舞の塚廻り古墳群、伊勢崎市の赤堀紫白山古墳、高崎市の若宮八幡北古墳、上芝古墳などが帆立貝形古墳として残っています。



② 天神山古墳と女体山古墳の密接な関係

太田天神山古墳と同じく、帆貝の中では東日本最大の大きさをほこる女体山古墳。

天神山古墳と、女体山古墳はほぼ同一時期に、同一方向を向いて作られました。また、同じ尺度を用いて作られていることから、この2つの古墳に葬られた人々には、密接な関係があると考えられています。

ここで私は、「この2つの古墳に葬られた人々は、夫婦だったのでは!？」という疑問がうかびました。ですがよく考えてみると、女性のための古墳が残されるケースは少ないと思いました。この2つの古墳に葬られた人々が「夫婦」という可能性もあります。親、または血縁関係のある人という可能性の方が高いのかもしれませんが。

夫婦・親子や血縁関係のある人、さらに言えば、女体山古墳に葬られた人は、天神山古墳に葬られた人と同じく、大きな権力をもっていた人だと思えます。



天神山古墳と女体山古墳からわかったこと

- ・女体山古墳も東日本でという大きさ(帆貝形古墳の中で)である。
- ・天神山古墳と女体山古墳に葬られた人は、お互いに密接な関係だった。

この2つのことから、

- ・女体山古墳に葬られた人は、ヤマト政権との強いつながりを持っていた、天神山古墳に葬られた人と密接な関係であったため、天神山古墳に葬られた人と同じくらいの権力をもっていた人だと考えられる。



挂甲の武人

①

〈埴輪、て何?〉

埴輪は、日本で作られた素焼(すやき)の土の製品です。厚手でやわらかく、水を吸う性質の土でできていて、赤みをおかた明るい色合いで焼かれたものがほとんどです。死者を埋葬した古墳に、飾りとしておくためだけに作られました。

埴輪には、「円筒埴輪」、「形象埴輪」と、2つの種類に分かれており、下のように、さまざまなお埴輪が作られていました。

こんなにたくさんの埴輪が近くにいたら、墓られた人も安心だね。



円筒埴輪



形象埴輪



器財埴輪

動物埴輪

人物埴輪

家形埴輪



1. はじめての国宝埴輪

① 埴輪王国

なんと国宝・国指定重要文化財に指定されている埴輪のうち40%が群馬県から出土しているのです。その埴輪王国である群馬の中でも、太田市はすば抜けたすごさがあります。

なんと、はじめて国宝に指定されたのが、太田市から出土した「挂甲の武人(けいこうのぶじん)」なのです。挂甲の武人が出土した後、同じような埴輪が多数出土します。その中でも挂甲の武人は特に細かく所までいっけいに表現され、美術的にも評価が高いものとなっています。



② 挂甲の武人

「挂甲の武人とは？」

「埴輪 挂甲の武人」には「埴輪武装男子立像」という、

名称 挂甲の武人(けいこうのぶじん)

もう一つの名称があります。

国宝

この挂甲の武人は、甲冑に身を固め、大刀と弓を持ち、

製作年 6世紀

完全武装した人物を表した全体立像です。

種類 埴輪

図1のように、細かく、さまざまな装備を身につけています。

素材 テラコッタ

寸法 130.5 cm (51.4 in)

では、この挂甲の武人という埴輪からは、どのようなことがわかるのでしょうか。

所蔵 東京国立博物館

東京都台東区上野公園

埴輪 挂甲武人



頭部に衝角付冑(正面に衝角(船の舳先)状の突起の付いた冑)をかぶり、頬当てを付け、上半身に挂甲(うちかけのよろい)を着用、手には手の甲を守るため籠手(こて)を着けている。



左手で弓を持ち、右手を大刀の柄に置き、抜刀の構えをとっている。



冑の背面に鍔(しころ)が付く。甲(よろい)の上から、矢を収めた鞆(ゆき)を背負っている。



草摺(大腿部を守るための)は胴と一体化して、腰に佩懸、スズに群を穿用して下半身を守る。

2. 挂甲の武人の秘密

① 装備されているものから...

1. 正面および背面には、ちょうちん結ひがしてあります。
このことから、甲の着装は、ひもを結んでなまかしていたこと、この時代から、ちょうちん結ひがあったことがわかります。
2. 装着している胄は、船の舳先の衝角のごとく前方部が突出する衝角付胄で、縦長の鉄板を並べて鉄留めした「たてぎひるいたひょうどめほうかくつきかぶと」に類似しており、その中でも高い技術を取り入れて作成されています。
このことから、この挂甲の武人は、海、船などに関係した人をモデルに作っていたと予想できます。
3. 東アジアで広く普及した大陸伝来の小札甲を身につけ、当時としては最新の甲冑で全身を固めています。長弓を執り、大刀を佩き、伝統的な弓具を背負っていたことから、弥生時代以来の伝統的な武装であり、日本列島独自の武人の姿を示していることがわかります。



② 作り方から...

1. 他^の武人埴輪と比べても大ぶりであり、きわめて精巧な作りであり、人物埴輪の中でも熟練の工人の手による優れた作品となっている挂甲の武人。本埴輪が出土した太田周辺では、同様の特色を持つ武人埴輪が多数出土しています。このことから、この地を拠点とした技術の高い埴輪製作集団があったことが想定されます。

はじめての国宝埴輪・挂甲の武人の秘密からわかったこと

- 太田市から出土された「挂甲の武人」は、はじめての国宝に指定されていた。
- 装備されているものから、ひもを結んで甲を着装していたこと、船などに関係している装備であること、日本列島独自の武装であることが予想される。
- 作り方から、太田市周辺には、腕の良い、たくさん^の埴輪職人がいたと予想される。

～ 調査のまとめ～

太田市には、「東日本1」の大きさを誇る天神山古墳がありました。出土した埴輪に当時の最新技術が使われていた、最強クラスの王にしか作られない「長持形石棺」が見つかったことなどから、天神山古墳の被葬者はヤマト政権と強い政治的なつながりを持った人だと考えました。

太田市からは、はじめて国宝に指定された、「挂甲の武人」という埴輪が出土していました。一つひとつ細かいつくりになっていること、挂甲の武人に似たような埴輪が太田市内で見つかったことから、当時の太田周辺には、腕の良い埴輪職人がいたのだと考えました。

感想と課題

私はもともと、埴輪や古墳といった歴史的な物にはあまり興味がありませんでした。なので、夏休みの課題が、この「東国文化のレポート」になった時には、「私にできるかなあ〜」と思っていました。まずは興味を持つことが大事だと思い、東国文化について調べてみると群馬の中でも、私が住んでいる太田市からは、とても貴重なものが出土している知り、もっと調べてみよう! と興味が変わりました。

「天神山古墳」が太田市にあるということをはじめ知り、「被葬者」はだれだったのかということも予想していくのも、ミステリアスでとても楽しかったです。

古墳や埴輪に対して「何かそんなに大切なもの」という疑問も解けました。古墳や埴輪には昔の人の考えや、生活、といったさまざまな情報があるのです。調べていく中では、古墳や埴輪は減少しているということにも気づきました。ここの古墳や出土品は、過去がわかる1番の教科書だと思います。このすばらしい古墳を、「どのように守り、語り継いでいくのか」ということを課題にして、先人たちが残してくれたものを守っていきたいと思います。

参考文献

- ・太田市立新田荘資料館(8月10日)
- ・ペンフレット(city.ota.gunma.jp)
- ・東国文化副読本～古代群馬を探検しよう～(hani-gunma.jp) (www.media.gunma-u.ac.jp)
- ・埴輪 挂甲の武人 - Wikipedia - (ja.wikipedia.org)
- ・特集 東国文化の中心地「古墳大國ぐんま」に迫る1 - 群馬県(www.pref.gunma.jp)
- ・群馬県：王墓 クラスの長持形石棺・舟形石棺を有する上毛の古墳文化(ameblo.jp)
- ・長持形石棺-wikipedia (ja.wikipedia.org)
- ・お富士山古墳と長持形石棺とその秘密
- ・帆立貝式古墳-コトバンク(kotobank.jp)
- ・太田市せ体山古墳 (city.ota.gunma.jp)
- ・太田市天神山古墳 (city.ota.gunma.jp)
- ・太田市の古墳ペンフレット(city.ota.gunma.jp)